

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年1月24日

協議会名: 沖縄県離島航路確保維持協議会

評価対象事業名: 離島航路運営費等補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
伊平屋村 (伊平屋～運天)	伊平屋島と沖縄本島への唯一の公共交通機関として、伊平屋～運天港を1日2便運航し、島民の生活航路として欠かすことの出来ない役割を担っている。	伊平屋村の住民移動窓口や広報誌、切符売場での広報等により事業内容の周知が図れている。「沖縄離島住民等交通コスト負担軽減事業」、村実施の「自動車航送コスト負担軽減事業」、「伊平屋村ふるさと割引運賃負担軽減事業」等の利用促進に繋がっている。	A 台風・荒天等により運航できない日があったが、事業は概ね適正に実施された	A 旅客数、自動車航送台数、目標を達成した。	・引き続き、「沖縄離島住民等交通コスト負担軽減事業」や「自動車航送コスト負担軽減事業」の利用促進を図り、また民泊事業の推進、交流人口(観光客等)の増加及び村内各種イベントでの誘客数の増加を図る。
伊是名村(伊是名～運天)	伊是名島と沖縄本島を結ぶ唯一の交通機関として、伊是名～運天港を1日2便運航。村民の生活基盤として欠かすことのできない重要な役割を担っている。	伊是名村の広報や切符売り場(窓口)などにより事業内容の周知が図られ、沖縄県離島住民等コスト負担軽減事業や伊是名村自動車航送コスト軽減事業の利用促進につながった。	A 台風・荒天等により運航できない日があったが、事業は概ね適切に実施された。	B ・台風・荒天などの欠航により運航回数が計画より下った。 ・旅客数若干減少したが自動車航送台数は、増加、沖縄県離島住民コスト負担軽減事業の旅客数は回復傾向にあり、村自動車航送コスト負担軽減事業の自動車航送台数も計画を上回った。	・利用者が回復傾向にあり、引き続き離島住民等コスト負担軽減事業や自動車航走コスト低減事業の利用促進、民泊事業等を推進し修学旅行生等の増加を目指す。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
粟国村 (泊～粟国)	地元住民の生活航路として、泊港～粟国港を1日1往復している。	沖縄離島住民等交通コスト負担軽減事業や、粟国村自動車航走運賃低減化事業の実施がフェリーの利用促進に繋がっている。公共工事の減が自動車航送における反動としてみられる。	A 中間検査期間中の運休を除いての運航計画日数に対する欠航は45日と前年度に比べると欠航率が増加した。悪天候によるものなので、事業は概ね適切に実施されている。	A 旅客数は令和5年4月から開始した「粟国村交通移動手段低減化対策事業」の効果が現れている。貨物や自動車航走は、村内大型公共事業減の反動がみられる。	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車航走や貨物については、公共事業減による反動を低くするため新たな取組(施策)構築を目指す。 ・旅客数については、令和5年4月から新たな取組として那覇発の大人及び小人の往復料金3割引を開始したことが前年比を上回る数値となっている。 ・経営改善の意識を徹底し、日頃から船舶の整備や管理等を行っていく。
有限会社神谷観光 (平敷屋～津堅)	地域住民の生活航路として1日／5便の往復運航(高速船2便／フェリー3便)	離島住民等交通コスト負担軽減事業の利用促進を図った。	A 台風や荒天による欠航が発生したが、当該事業は適切に実施出来た。	B 期間：R4年10月～R5年9月 目標に対する実績 【運航回数】 目標 1,825回／実績 1,766回 台風や荒天による欠航が発生したため、目標値に届かず。 【旅客輸送】 目標 99,071人／実績 99,042人 夏季繁忙期の台風影響により、長期間の欠航の影響があり、わずかに目標に届かなかった。 【自動車航送】 目標 3,748台／実績 3,755台 公共工事車両の増加やうるま市の車両支援事業などもあり、一般車も増加したと思われる。 【貨物】 目標 838t／実績 559t 人参の生産量の減少や台風影響によるモズク収穫量が減少し、出荷量が減少した。	<ul style="list-style-type: none"> ・離島住民交通コスト負担軽減事業の利用促進。 ・うるま市が実施する島内事業と連携した、告知や利用促進に向けた取り組み。 ・観光客増へ向けた、島内事業者との連携。 ・新造船就航に向け、関連機関や造船所との調整を行い、R6年6月中の就航を目指す。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
合資会社福山海運 (与那国～石垣)	与那国島から石垣島への生活航路で公共交通機関です。 【久部良港～石垣港】 ※ 週2航海往復運航 (与那国発 水曜日・土曜日) (石垣発 火曜日・金曜日)	今期も昨年同様に与那国町ホームページ等での広報から各部落公民館及び町観光協会への事業内容の周知を図り、沖縄県離島住民負担軽減事業の利用促進致しました。コロナ明けから公共工事等の増加、又、与那国町主催行事の再開から広報及びホームページ等の影響から、人流より観光客・車両、物資等が増加傾向となりました。今後も継続的に利用促進に努めて参ります。	B 今期も異常気象による台風による欠航・冬場の荒天等が続き運航出来ず、予定ドックの前後にも台風が多く欠航がありました。臨時便でのカバーも致しましたが、計画から減便となり計画通りに実施運航することが出来ませんでした。	A 新型コロナ明けの兆しが見えてきた傾向から、計画より旅客数は増加及び自動車航送も増収となりましたが、貨物輸送量は欠航が多く、車両輸送に変更の為、若干の減少でありましたが、郵便航送、運航雑収入も計画から増収となりました。	今期は、コロナ明けの兆しから与那国町主催のイベント等の行事がほぼ開催した為、観光客及び人流による増加から、物資等の流通が活発化し、増加傾向となり事業計画変更申請等も実施し積極的に協力参加して参りました。今後も与那国町行事等に協力参加を致して参ります。 ・今後も引き続き、離島住民負担軽減事業の利用を促進して参ります。
久米商船株式会社 (泊～渡名喜～久米島)	地元住民の生活航路として泊～渡名喜～久米島間を月曜日を除く毎日、フェリー2隻で1日2往復している	渡名喜村や久米島町のHPや切符売り場(窓口)での広報活動等により、事業内容の周知が図られ、沖縄離島住民等交通コスト負担軽減事業の利用促進に繋がった	A 今年度はコロナによる減便もなく、台風・荒天などによる欠航以外は適切に運航ができた。	A 【運航回数】 計画650回に対し、実績575回で75回欠航。 【旅客輸送】 目標50,273人に対し実績は54,476人。コロナの規制緩和により、観光客や修学旅行実施校が増え目標達成。108.4% 【貨物輸送】 目標62,452トンに対し、実績は63,394トンで達成率101.5%。 【車輛輸送】 目標10,007台に対し実績は11,530台。達成率115.2%	・離島住民等交通コスト負担軽減事業の継続で利用客の維持・確保を図る。渡名喜村・久米島町・旅行会社等と連携し、観光客・修学旅行等の増加を目指す。また、SNSの活用やキャッシュレス化・WEB予約の導入等で利便性を高め、利用客の増加に努めたい。 ・貨物や車輛航送は、公共工事や島民の生活等の影響が強いが、両町村、民間工事の受注による輸送量の増加に対応できるよう、日頃から船舶の整備や管理を行う。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
合資会社多良間海運 (平良～多良間)	島民の生活物資の輸送や、燃料及び建築資材等を輸送し、平良～多良間を1日1往復、月24回運航しています。	<p>運航収益は19,113万で前期と比較しまして559万円の増加。要因としては、コロナが第5類に移行したのに伴い観光客等が戻ってきたものだと思います。</p> <p>費用は前期と比較しまして、33,406万円で2,187万円の増加。要因としては燃料費の高騰や用船料が年度を通して発生したためだと思います。(前期は年度途中)</p>	A 運航回数は、250航海計画に対し台風や荒天等に因り、実績214航海と36航海の減少と成りましたが、台風や荒天以外の欠航はなく概ね計画通りに推移しております。	B 旅客数は目標5,431人に対し4,256人と成りましたが、前年に対しては1,974人の増と成っております。自動車航送台数は目標1,861台に対し2,029台と168台の大幅な増と成りました。前年に対しても58台の増です。貨物量は目標12,259トに対しサトウキビの減産により黒糖製品の輸送量が減少し11,522トと737トの減と成りました。	多良間村や観光協会と連携をとり、一周マラソンやビンダーアース大会のイベント等の集客アップを図る。又SNS等も活用して、観光客に周知してフェリーによる船旅の魅力や多良間島のアピールを発信していく。
株式会社大神海運 (大神～島尻)	島民の日常生活、通院及び観光客の利用として、島尻～大神間を1日4往復運航。	離島住民等交通コスト負担軽減事業の利用促進に繋がった。	A 事業は適切に実施された。台風、荒天による欠航のため、運航できない日があった。	A 【運航回数】 目標1,440回に対し、実績1,299回であった。 台風、荒天等による欠航により運航回数は減となった。 【旅客】 目標26,523人に対し、実績は31,705人であった。 【貨物】 目標7.31トンに対し、実績は10.5トンであった。	<ul style="list-style-type: none"> ・島の過疎化、高齢化に伴い毎年利用者が減少する中で、航路を維持するために免税軽油を利用し燃料費の経費削減に努める。 ・引き続き、離島住民等交通コスト負担軽減事業の利用率向上を図る。 ・新造船ウカンかりゆす就航に伴い、旅客定員が増えたためこれまで以上に観光客の増加を目指す。
久高海運合名会社 (久高～安座真)	久高島住民の生活航路として、久高島・安座真間をフェリー3便、高速船3便、1日6往復	沖縄離島住民等交通コスト負担軽減事業は、島民が周知し利用に繋がっている。	B 台風や、また台風被害による減便はあったものの、ほぼ計画どおりに実施することができた。	A 旅客人数は、計画より約19800人、自動車輸送については約600台ほど計画よりも上回り目標を達成することができた。新型コロナ5類に伴う緩和等や、旅行支援等により平日・祝祭日を問わず観光客等の増加、島民も往来が増えた結果と思われる。	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄県離島住民等コスト軽減負担軽減事業の周知を推進する。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
有限会社船浮海運 (船浮～白浜)	島民の生活航路として、船浮～白浜間を以下の通り運航した。1日5往復 運航回数 1,772回(内13回臨時便)	祭り行事・イベントの再開、地元の遠足等で沖縄県離島住民等コスト負担軽減事業の利用促進に繋がった。また、地元の方が利用しやすいよう路線バスに合わせるなど、ダイヤ変更も地元住民から評価を頂いた。	0 台風により運航が出来ない日もあったが、事業は適切に実施された。	0 台風の影響もあって、運航回数は計画を下回った。旅客数計画が15,536人に対し、実績は20,550.5人で、32.3%増加した。貨物は計画5トンに対し、5.76トンで15.2%増加した。	・島の魅力や情報を発信し、観光客の利用増をはかる。 ・費用の面では、船舶修繕費の削減や燃費向上に努める。
大東海運株式会社 (泊～南北大東)	島民の生活航路として那覇から南北大東間の運航を行っている。一往復4日で月5航海から6航海を運航。島の港湾事情が劣悪の為気象に左右される。	南北大東島両村の広告等により事業内容の周知は図られ、毎年緩やかではあるが、利用促進は向上している。それにより島間の交流に繋がりが、それぞれの行事の参加交流も増えた。	A 気象海象が悪い島である為、台風、荒天等には大きな影響を受ける。運航形態を変更しながら、適切に実施したが、運航回数は減った。	B (運航回数)台風や荒天により、目標60回/実績49.0回と11.0回の減。運行回数減により旅客は目標達成には至らなかった。貨物は公共工事の減少により売り上減。貨物も目標達成には至らなかった。 (旅客)目標1,553人/実績1,206人 (貨物)目標43,785トン/実績42,174トン	引き続き、離島住民コスト負担軽減事業の利用促進の図り、運航形態の可能な限り需要のダイヤで、利用しやすい環境を整備し、南北大東村と広報活動連携し、旅客、貨物の増を図る。
有限会社安栄観光 (石垣～波照間)	島民の生活物資の輸送や通院など生活航路として石垣港～波照間港を高速船は1日3便(大型高速船は初便の最終便の計2便)、フェリーは週3便往復運航。	・竹富町のホームページ等や切符売場(窓口)での広報等により、事業内容の周知が図られ、沖縄離島住民コスト負担軽減事業の利用促進に繋がった。 ・波照間航路分科会の開催により、関係機関との情報共有と連携を図った。	B 台風・荒天などの気象や船体不具合の影響により運航できない日があったが、事業は概ね適切に実施された。	B 新型コロナウイルスの5類移行により旅客数は増え計画に近い人数となった。貨客フェリーは荒天による欠航が多かったが臨時便を運航する対応をとった。貨客フェリーの運航回数はほぼ計画通りだったが、高速船は荒天等により欠航が増えたため運航回数は計画を下回った。	・引き続き、離島住民コスト負担軽減事業の利用促進を図る。 ・大型高速船(ばいじま2)が就航し就航率の向上と旅客数の増を目指す。 ・極力、燃料費と船員費の削減に努める。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
渡嘉敷村 (泊～渡嘉敷)	渡嘉敷島と沖縄本島への唯一の公共交通機関として、泊港～渡嘉敷港を1日3便(フェリー1便、高速船2便)往復運航。	渡嘉敷村(航路事業者)のホームページや切符売場での広報等により、事業内容の周知が図られ、沖縄離島住民等交通コスト負担軽減事業の利用促進につながった。	A 荒天により運航できない日があったが、概ね適切に実施された。	A 目標利用人数139,426人/年間に対して193,808人/年間となった。実績が予測を上回った要因として、新型コロナの回復傾向による観光客の増や外国人客の増と考えられる。	引き続き、当該航路をさらに利用しやすくする方法や今後期待されるサービス等について検討を実施し、利用客の増加を図る。
合名会社水納海運 (渡久地～水納)	島民の生活物資の輸送や通院など生活航路として、渡久地港～水納港を1日4便(高速船)往復航行。 ※12/1～3/31→1日3便 4/1～6/30→1日4便 7/1～7/19→1日6便 7/20～8/31→1日11便 9/1～9/20→1日8便 9/21～11/30→1日4便 ※令和4年11月1日より運航回数及び運航時間の変更 1/1～3/3・11/1～12/31→1日3便 4/1～6/30・9/21～10/31→1日4便 7/1～7/19・9/1～9/20→1日6便 7/20～8/31→1日8便	本部町のホームページ等や切符売り場(窓口)での広報等により、事業内容の周知が図られ、沖縄離島住民等交通コスト負担軽減の利用促進に繋がった。	B 台風や荒天候により運航出来ない日があった。また、年度初めに運航回数及び運航時間の見直しを行った。	A 運航回数については計画1,757回に対して実績1,214回となりました。輸送人員は計画59,051人に対して実績92,339人、貨物輸送は計画59,786トに対して実績71,46トになりました。	引き続き、「離島住民等交通コスト負担軽減事業」の利用促進を図り、町役場及び旅行業社等関係機関と連携し交流人口(観光客等)の増加を目指す。